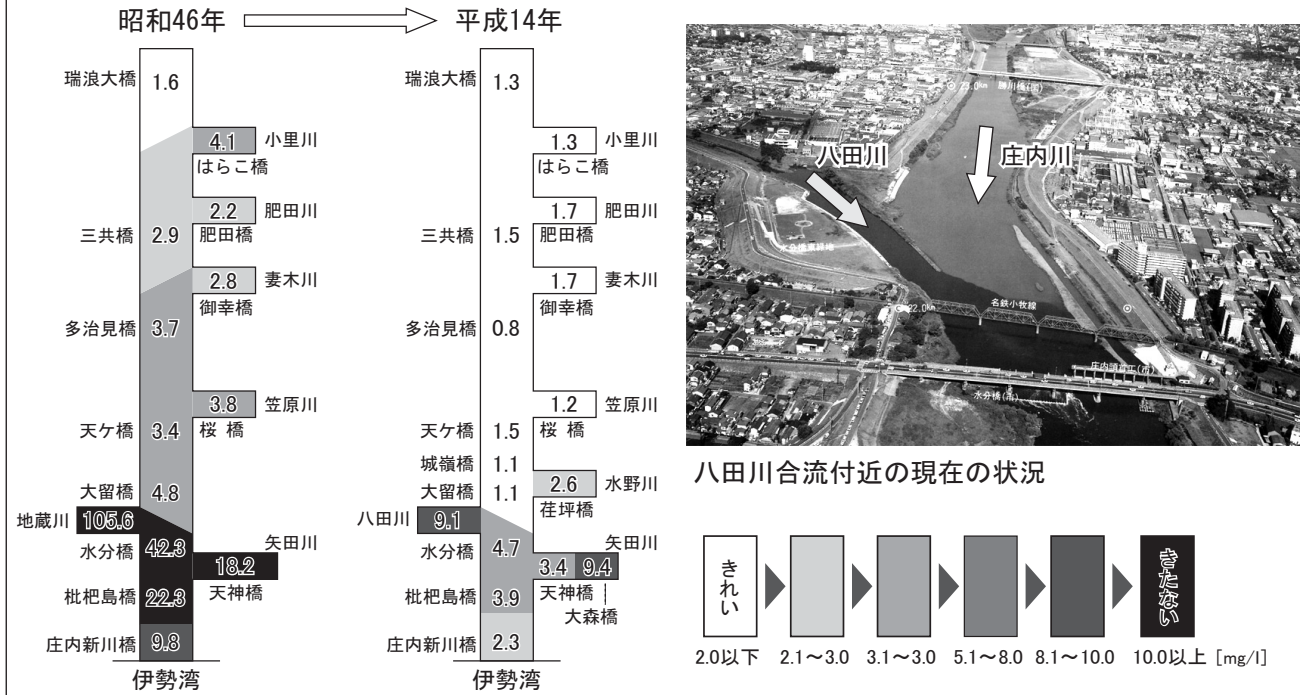


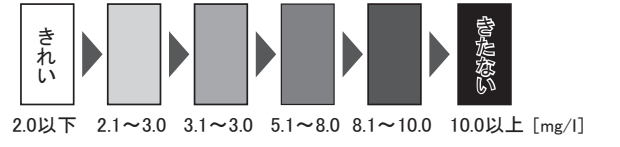
○ 利水・環境・人との関わりについて

土岐川庄内川の利水・環境・人との関わりについての現状と課題が確認されました。

支川流入とBOD(生物化学的酸素要求量)



八田川合流付近の現在の状況



水質は改善されてきていますが、1級河川の平均では全国ワースト12位です。(平成14年調査)



柴田委員

・水利用と水質から見た課題に「◆流域と自治体が一体となった水質改善」とありますが、この流域の捉え方を教えていただきたいです。

事務局

・ここでいう流域というのは、まさに降った雨や汚濁物質が河川に入ってくる範囲だと考えています。そういう流域の汚濁源の対策として工場などの排水規制を進めていくことなど、一義的には河川の中での対策よりも汚濁の発生源での対策、流域での対策が水質改善では必要であると考えています。



松尾副委員長

・水質については、一部区間で環境基準の見直しによりワンランクアップしていますが、更なる環境基準の見直しがこれからの課題となると思います。感潮域での水質汚濁に関わる問題では、雨天時の汚濁負荷対策も一つの大きな課題になると思います。また、回遊魚対策については、「魚がのぼりやすい川づくり」として何をどこまで上げらせるかについても議論する必要があると思います。



小菅委員

・生態系の豊かさとは、その種類も大事ですが、実際水鳥の生体数でとらえてみるとか、あるいは自然の保全では、水際のコンクリート化率がいくらかなど、わかりやすく目標化しやすいとらえ方をした方がよいと思います。



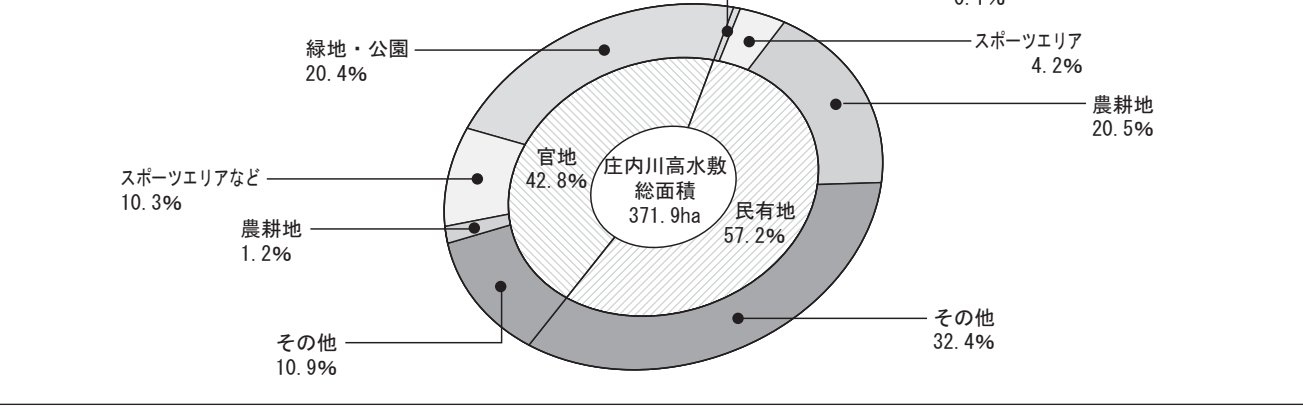
内田委員

・庄内川中下流部の勾配が緩やかになるところに取水堰がたくさんあります。これは農業行政の方でしょうか、合口するとか改修するという計画はあるのでしょうか。魚道の問題なども関連するので、情報があれば教えていただきたいです。

事務局

・合口という話は、今のところありません。現在、水田が減少している中で、土地改良区でも昔と違い財政的な面も非常に厳しい状況になっていると思います。治水面では洪水の流下阻害の問題もあり、第3回の流域委員会では撤去という話がありましたが、その撤去についても、今のところすぐという話はありません。

高水敷利用割合



富永委員

・高水敷の民有地が50%ぐらいあり驚きましたが、この対応は今後どのように考えていくのでしょうか。ある程度の改善に向かわせることができるのでしょうか。割合的に大きいので、住民の意見を吸い上げたときに、その民有地はどう扱うのでしょうか。

事務局

・高水敷は、国有地として管理していくことが望ましいのですが、民有地のままでも、一定の規制はできます。また、これからの河川敷の利用の仕方としての優先順位を決め、必要があれば買収も考え、事業も含めて手順を考えていくのだと思います。

・川へのアクセスの問題で、堤防の兼用道路によって堤内地から堤外地へ行けないという問題がありましたが、市民の意見の一つに川へ車で行けるようにしてほしいという意見がありました。庄内川は堤防上がハイウェイ状態になっていて、車で下りられる設備が少ないから通り過ぎざるを得ないので、ある程度の問題は我慢しなければならないが、この意見を活かす方法も考える必要があると思います。



辻本委員長

・川の中の土地利用について、どうあったらいいのかというのを、委員会の中で自由に意見交換できる時間をとりたいと思います。



原田委員

・河川と人との関わりの中には、環境的なことだけでなく水防等も関係してきますので、治水も絡めて議論していく必要があると思います。地域住民にとって川は安全ありきだという点も重要で水防団が弱体化していく中で、この水防について整備計画の中で議論していく必要があると思います。



片岡委員